

## 和歌山への私の提言——和歌山にもっとビジネスを！

### 「My Proposal To Wakayama: Let's set up a business!」

叶 志恩

(マレーシア・経済学部三年生)

私は日本に来てから三年目になります。それまでの 17 年間は地元のマレーシアの田舎町で、1 年間は首都のクアラルンプールで過ごしていました。故郷は南部のジョホール州にあるクルアンという町で、山があり川があり、公共設備も整っていて、やや豊かな町でありながらも都会ほど環境汚染がひどくなく、とても暮らしやすい町です。

私の地元、そして首都も含めて国全体の特徴としては、多民族社会で、人種、宗教、言語、文化などの面において全く違う三大民族のマレー系、中華系、インド系と少数民族や外国人が共に町の中に住んでいます。ですので、町に出かけると、昔からのイスラム教モスクや、ヒンズー教寺院、中華系の仏教・道教寺院が立ち並び、宗教・民族特徴あふれる住宅街の風景に出会えます。長い月日にわたり多民族が共存する独特の文化を育んできたのです。

このような環境だからこそ、住民たちが平和かつ快適な生活を送るようにまちづくりを実行する際、考慮しなければならないポイントも少なくありません。たとえば、建物の案内図などの設備に多言語対応システムを設けたり、毎日コーランを大声で放送するモスクを建てる時に病院や学校との距離を空けたり、さらにみんなが利用するスーパーでは宗教関係を考えるうえ豚肉や牛肉などの商品をきちんと分けて販売するところがほとんどです。こうして私の地元でのまちづくりは、ほかの国・地域と違って住民としての基本要件だけでなく、各民族の生活文化も考慮した上で行われてきたのです。

ただし、まだまだ資金や技術、そして環境保護意識の足りない発展途上国であるということで、豊かな町へと発展させようとしても、所々至らない点も多々存在すると思います。これに関しては、特に私が日本に来てから実感したものです。

私は和歌山での大学生活を始める前に、三週間にわたって日本北部の函館から九州の博多まで一人旅を経験し、いろいろと刺激を受けてきました。そしてこの三年の間には石川県と東京都でホームステイを体験し、もっと奥のほうからまちづくりの現状を理解することができました。それらの経験を思い出しながら、マレーシアと日本の比較、そして一番実感できている和歌山の良いところ、さらにはマレーシアに見習ってほしいところを、まとめてみたいと思います。



全体的に日本のいいところを挙げますと、少なくとも三つ思い浮かびます。それは、1、「治安がいい」；2、「街が清潔できれい」；3、「時間をきちんと守る」の三つです。特に治安がいいのは震災後にでも証明できます。海外だったら当たり前のように予想される暴動や犯罪事件も起きず治安のよさは、ニッポンの誇りにすべきところだと思うほどです。

もっと細かく、ハードとソフト両方の要素を含めて挙

げてみたいと思います。

まず、住んでみてわかった日本のいいところは、「人が温かく優しい」「旅行でどこに行ってもご当地のお土産がほとんど買える」「環境改善のためのゴミ分類」「小道の曲がるところにミラーが設置されていてとても便利で安全」「障害者やお年寄りのための公共施設が充実している」「伝統文化を大切にすると同時に、観光業にもメリットをもたらす；例：石川県の文化村」「アフターファイブにもエンターテインメントが満載；例：東京」などです。そして和歌山に絞ると、「食文化が豊かな上、商品化に積極的」「閑空から近くて海外からも観光客を招きやすい」「世界遺産の熊野古道やきれいな白良浜があり南部は観光スポットが多い」などの点が挙げられます。



その反面、悪いところもいくつかあります。例えば、「商店街やショッピングセンターが少なく、買い物する人は大阪まで行ってしまう」「県内で一番賑やかな和歌山市内のほうでも夜は元気がなく、出かける人も少なく商売がなかなか成り立たない」「山道が多いのに公共交通が整っていない；バスの回る範囲が少ない；本数が少ない；最終バスが早い」「関東と比べると外国人に対する反応に違いがあって、視線に不快感を感じる観光客や留学生がたまにいる」「町並から町の特徴が見当たらない」「市内の観光地が少ない」などです。

こんな和歌山に対して私が提案したい項目はいくつかあります。

その一つ目は、和歌山市の中心市街地に関してです。

かつて繁華街だったぶらくり丁のシャッター通り現象はひどくなってきており、このまま続くと最終的には空き店舗ばかりとなり、非常に残念な結果になりかねないということは多くの人を知ってのとおりです。

そこで私が提案したいのは、1：日本政府機関が設けている地域再生中小企業創業助成金制度を積極的に活用し、事業再生の意欲のある中小企業者や若者に対して適切な支援をしながら、共同でこの商店街の再生を長期的かつ効率的に活性化を進めていきます。2：私が個人的にとってもお勧めしたいのは、この商店街の通りで毎週決まった曜日の夕方から夜まで夜市を立ち上げることです。学生や中小企業、あるいは地元の手企業との協力で臨時ブースか屋台を立ち上げ、グルメ料理から服、加工品、手芸品、おみやげに至るまで幅広い商品を販売し、「大阪まで行かなくてもきれいな商品がみつけれたらいいのに」「会社や学校が終わってエンターテインメントがなく遊びに行く場所もない」「家のごはんやコンビニのお弁当以外にも屋台料理も食べたい」という声に答えることです。そうすれば、商売を通じて商店街を元気づけられるし、地域の交流促進や経済発展、住民たちの生活向上にもある程度のメリットをもたらすことができるのではないかと考えます。



この提案について、商売の許可問題や周りの店に与える影響などの要素も事前に綿密に考慮しなければならな

いし、長期的に実施していけるかなどの懸念もあるかも知れませんが、インターネットやニュースでも報道されるように大分県などの成功例も出ている中、試してみてもいいのではないだろうかと考えて提案しました。

なぜこのような提案をしたのかというと、私の地元では、多数の住宅街ではこのような夜市が毎週開店されており、多くの住民に愛され、町が元気になる一方、住民も満足度の高い買い物ができ、実に一石多鳥だからです。

次に、市内に観光地も買い物できる場所も少ないという点に対してですが、私が提案したいのは、1. JR あるいは南海駅の周辺で規模の大きなデパートを立ち上げること；2. 和歌山城や紀三井寺、和歌浦など市内に位置する有名なスポットの繋がった交通システムを整え、県外からの観光客に気軽に散策してもらえそうな日帰りツアーを実施し、さらには季節に合わせ、有田や湯浅まで案内し、ご当地の有名なみかんや醤油、金山寺味噌の見学を開催するのもいいのではないかと考えます。

そこで期待できるのは、デパートを立ち上げることで、多くの顧客を招くだけでなく、起業したい人の応援やアルバイトなどで失業率減少にも役立たせる、和歌山の県民の生活向上にもつながると思います。一方観光ツアーの定期的な開催で、海外・県外から短期滞在の訪問者にも気軽に和歌山北部を回って、和歌山の歴史や食文化を知ってもらえるし、町の宣伝そして市内の観光業の発展としても試して実行する価値があるのではないかと思います。

以上和歌山県のまちづくり・地域再生について主にビジネスの観点からいくつか提案をさせていただきましたが、参考となって実際に取り入れていただけるかどうかにかかわらず、私は自分にとっての第二故郷の和歌山の今後の発展を応援したいと強く思っています。

